

エスフォーム ボディ・サポートⅢを用いた 固定の実施例

1. ボディ・サポートⅢを用いた固定の例
 - 1-1 単体での固定
 - 1-2 ベースプレート（上半身用）を用いた固定
 - 1-3 ベースプレート（下半身用）を用いた固定
 - 1-4 ベースプレートを用いた固定（全身）
 - 1-5 ベースプレートを用いた固定（TBI）
2. 注意点
 - 2-1 X線の吸収について

注意事項

- ◆ 本書は、ボディ・サポートⅢを使用して治療を行う際の実施例を紹介しています。
- ◆ 実施例はあくまで参考であり、本書に従って放射線治療を行っても、その効果を保証するものではありません。最も大切なことは各施設独自で安全性のチェック、精度確認を行うことであり、治療の実施に関する最終的な判断は医師自身の判断で行ってください。
- ◆ 安全のために、ボディ・サポートⅢの注意事項や取り扱い方法については必ず添付文書及び取扱説明書を読み、内容を理解した上でご使用ください。

■監修 浜松医科大学放射線腫瘍講座

■発行 エンジニアリングシステム株式会社

作成日 2019年10月

改訂日 2021年3月

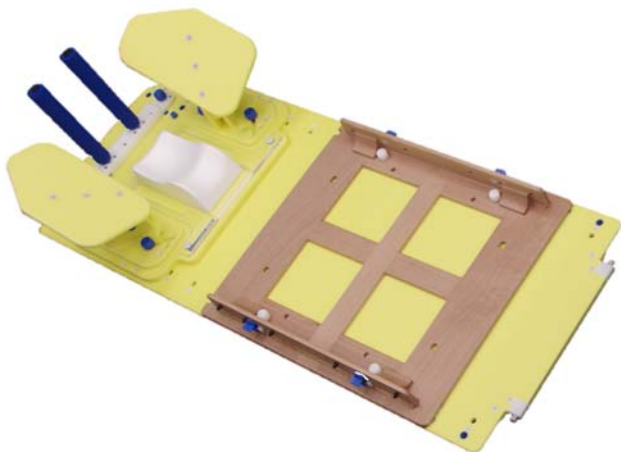
1. ボディ・サポートⅢを用いた固定の例

1-1 ベースプレート(上半身用)を用いた固定

上半身の固定には、ベースプレート(上半身用)を使用して固定を行います。

ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)をあわせて使用することも可能です。

- ベースプレート(上半身用)のみを使用する場合



*ベースプレート(上半身用)に、ウイングサポート、木製体部プレート、体幹部用固定シェル、吸引式固定バッグを用いて固定します。



*吸引式固定バッグは、症例によって長さを使い分けます。

【ベースプレート(上半身用)を使用した固定例】



- ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)を使用する場合
*上半身用および下半身用のベースプレート(上半身用)をあわせて使用すると、膝をまげた状態で固定することもできます。

【ベースプレート(上半身用)及び(下半身用)を連結した固定例】



1-2 ベースプレート(下半身用)を用いた固定

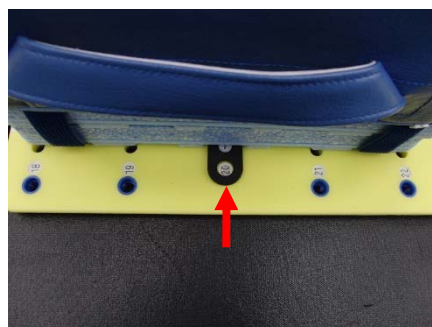
下半身の固定には、ベースプレート(下半身用)を使用して固定を行います。

ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)をあわせて使用することも可能です。

- **ベースプレート(下半身用)のみを使用する場合**

膝乗せクッション、ヒールサポートは、インデックスバーによってベースプレート(下半身用)へ固定します。患者の足の長さや体位に合わせて位置を調整してください。

各位置には目印となる番号があり、患者ごとの位置の違いを記録し、再現することが可能です。



【ベースプレート(下半身用)を使用した固定例】



*本例はベースプレート(下半身用)を使用していますが、膝乗せクッション、ヒールサポートを直接インデックスバーで寝台に固定することもできます。

- ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)を使用する場合
ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)をあわせて使用すると、吸引式固定バッグやシェルを使用することができます。

【ベースプレート(上半身用)及び(下半身用)を連結した固定例1】



*吸引式固定バッグを利用する例です。

【ベースプレート(上半身用)及び(下半身用)を連結した固定例2】



*体幹部用固定シェルを利用して、さらに強固に固定することもできます。

1-3 ベースプレートを用いた固定（全身）

別売りの頭部用固定シェルおよびベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)を組み合わせて、全身を固定することができます。

注意事項

- ◆ 患者は手を全く使えなくなります。絶飲食を行う、ブザーを持たせる、嘔気の有無を確認するなど、嘔吐対策に細心の注意をはらい、施設の判断、責任において使用してください。
- ◆ 嘔吐が可能となるように、頭部用固定シェルの口～顎の部分を開けておくことも考慮してください。

【ベースプレート(上半身用)及び(下半身用)を連結した固定例】



【安全対策】

患者には緊急時に備えて、コールスイッチやブザー類を持たせてください。



コールスイッチ 一例

1-4 ベースプレートを用いた固定 (TBI)

注意事項

- ◆ 患者は手を全く使えなくなります。絶飲食を行う、ブザーを持たせる、嘔気の有無を確認するなど、嘔吐対策に細心の注意をはらい、施設の判断、責任において使用してください。
- ◆ 嘔吐が可能となるように、頭部用固定シェルの口～顎の部分を開けておくことも考慮してください。
- ◆ 治療寝台上でベースプレートを回転する場合は、患者の安全性を確認した上で、施設の判断、責任において行ってください。

【固定方法】



ベースプレート(上半身用)及びベースプレート(下半身用)に、頭部固定用プレート、木製体部プレート、吸引式固定バックをセットする。(腰に痛みのある患者の場合は、クッション材を敷くなどの工夫をしてください。)



患者を仰臥位にセットアップし、吸引式固定バックの空気を抜いて成型する。

両脚は軽く開き、足首は軽く曲げて足先まで吸引式固定バックで覆われるようにします。

両腕は基本的に伸ばして体側につけますが、肩幅のある男性の場合は腕を内側に絞り、臍付近で両手を握らせます。



この状態で頭部用のシェルを作成します。

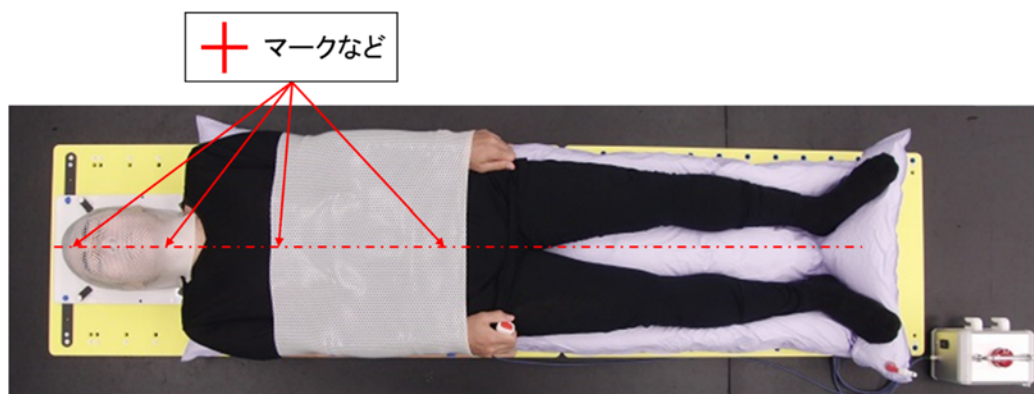
TBI では治療中に嘔気、嘔吐が高頻度で生じるため、それに備えて口の周りは切り抜けるよう印をつけておき、CT 撮影後、その印に沿って切り抜きます。

次に、体幹部のシェルを作成します。両腕の部分をしっかり成型取りしてください。



【位置再現】

頭部用シェル、体幹部用シェル、吸引式固定バッグの正中にはマーキングを行い、位置の再現性を担保します。適宜マジックペンやテープ等をご利用ください。



【安全対策】

患者には緊急時に備えて、コールスイッチやブザー類を持たせてください。



コールスイッチ 一例

2. 注意点

2-1 X線の吸収について

ベースプレート(上半身用)に使用しているポリエチレン発泡体のX線吸収は、1cmの厚みの素材で、6MV X線にて約1.5%、10MV X線にて約1%でした(実際のベースプレート(上半身用)は1.5cmの厚みがあります)。ただし測定条件によっても異なりますので、X線吸収の補正等につきましては、各施設でご判断ください。